

「農」とともに受け継がれてきた、
雪国あきたの民俗文化に触れる。



ふるさとの風景

三平の家◎五城目町

今では貴重となった茅葺き屋根の民家が残る五城目町の山あいの集落「北ノ又」。県内を舞台に、老マタギと少年、イタズ(熊)との生命の大切さを描いた映画「イタズ」や、映画「釣りキチ三平」のロケ地にも選ばれました。この作品に登場する茅葺き民家は、今でも大切に保存され一般公開しています。

また、秋田県北部阿仁地方の山間部の集落には熊狩りなどの集団猟を得意とするマタギの村が多く点在していました。(マタギとは、熊などを捕獲する技術と組織をもち、狩猟を生業としてきた人々のこと。)現在は狩猟を生業とする伝統的なマタギは姿を消してしまったものの、山の恵みを受けて暮らす人々のしきたりや信仰は失われることなく、今に受け継がれています。



あきた、 季節の風景へ。

かつての秋田の冬は長く雪深く、農業生産活動のできない厳しい季節でした。だからこそ、長い冬を楽しむべく無病息災や豊作などを願った地域に根ざした様々な伝統行事が生み出されました。そんな「民俗文化の宝庫」と称されるほどの秋田は、いまなお、伝

統的な行事が数多く残り、代々受け継がれています。
集落が活気づく田植えの季節から、誰もが春の足音を待ちわびる厳寒の季節まで、華やかさと厳かさの中で生まれた五穀豊穡などを祈願する祭りが四季を通して続いていきます。四季折々の中に利他的な美しさを宿した幻想世界。秋田へ訪れた際には、ぜひその目に焼き付けてください。



「農」とともに受け継がれてきた、雪国あきたの民俗文化に触れる。



刈り取った稲穂を束にし、稲架へ掛けて天日干しにする風景は秋の風物詩。手間暇かかる天日干しは稲を逆さまに吊るすことで、稲穂の栄養分や言みが米粒へ凝縮され一層美味しいお米に



仕上がると言われて、秋田という県名のおり秋の田んぼの風景は秋田を体現する風景といっても過言ではありません。ゆえに米の収穫や新米を食べることに特別な思いがあります。直売所やレストランでの「新米」のほりもまた季節を感じさせます。秋田の冬、農山村の人々は長い冬への支度として保存食や漬物などの食文化を発展させてきました。大根を干す・いぶす・漬ける・昔ながらの



製法でつくる秋田名物「いぶりがっこ」はまさに独特の風味がある逸品です。干し餅づくりも米どころ秋田の風物



詩。干し餅は、餅を凍らせ、寒気に晒して乾燥させた、伝統的な保存食。かつては田植えの「一服時」や、おやつに食べられていました。現在では、名産菓子として直売所などにも置かれているので、道の駅などを訪れた際に、探してみたいかがでしょうか？秋田の食はいずれも風土と農村漁村の風習や文化が色濃く反映されています。



東北地方の日本海側に位置し、海にちよこんと突き出た男鹿半島が目印の秋田県。世界自然遺産・白神山地に代表される雄大な山々、のどかな田園風景、四季折々の絶景や食文化、伝統の祭りや芸術、全国に誇る酒どころ、乳頭温泉郷などの名湯・秘湯、米・野菜・果物、畜産などの多彩な農業、素朴な県民性など、その魅力は尽きることがありません。



春の雪解けとともに里山は山菜の宝庫。ふきのとう・わらび・しどけ・こごみ：数え切れないほどの山菜ははシンプルでありながら、山の恵みが感じられる一瞬の春のこちそうで食卓に緑の彩りを添えます。忙しい田植えも一段落する夏は祭りの季節。五穀豊穣や無病息災を願う秋田の短い夏に熱気を与えます。県南部・鳥海山麓一帯では、山岳信仰の流れをくむ共通の番舞や獅子舞が数多く伝承されています。鳥海山はかつて



山伏・修験者が修行の場とした雲山でした。江戸初期に京都からやってきた修験者「本海行人」が伝えたと言われる「本海獅子舞番楽」は、国の重要無形民俗文化財にも指定され、由利本荘市鳥海地域の13の集落に現在も脈々と受け継がれています。この他にも北秋田市阿仁の「根子番楽」や横手市大森町の「保呂羽山の霜月神楽」など、全国でも最多16もの伝統芸能が重要無形民俗文化財に指定されています。

「男鹿のナマハゲ」もまた風土と人々の願いが生み出した秋田が誇る民俗文化といえるでしょう。

